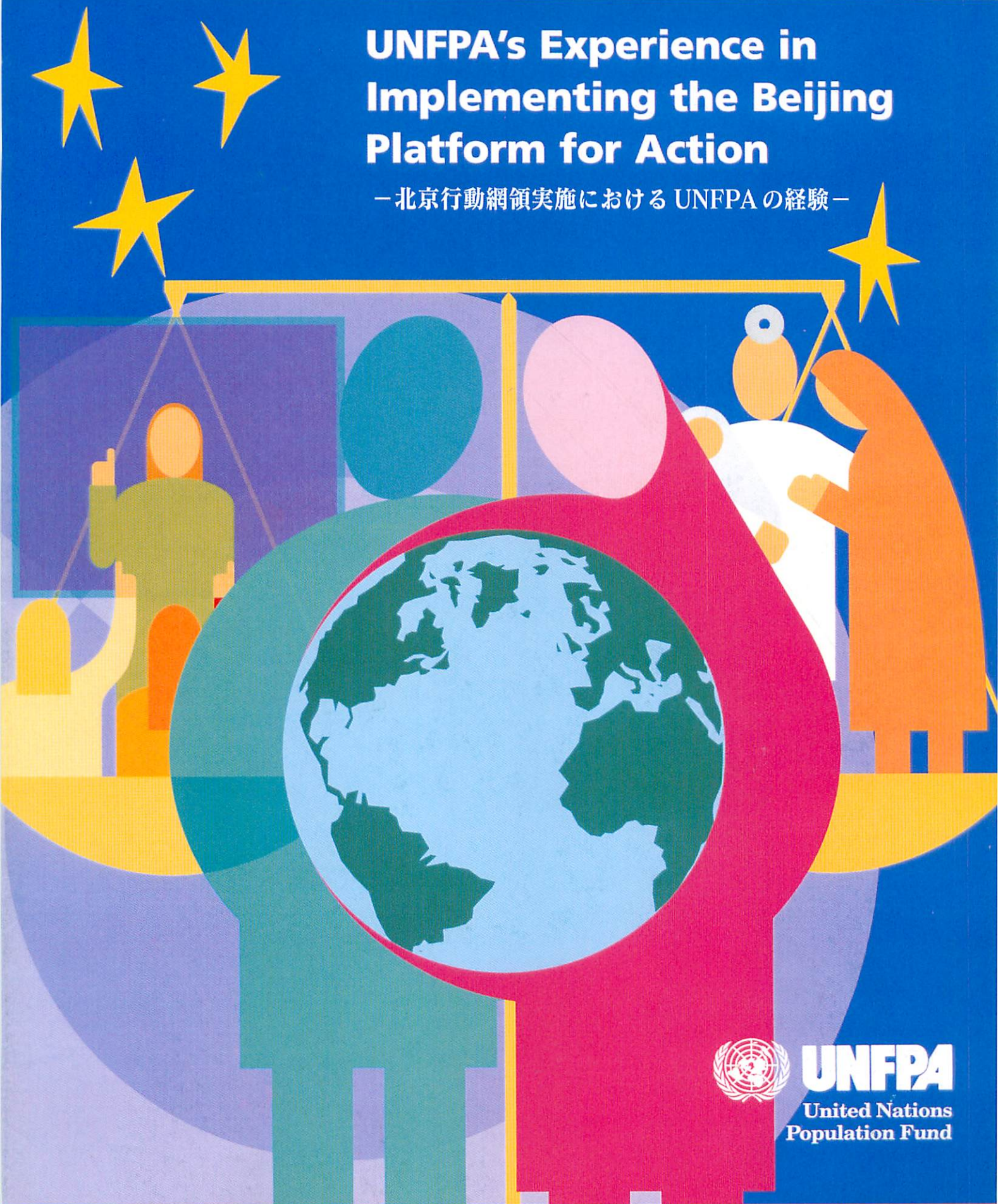


女性のエンパワーメントに向けて

UNFPA's Experience in Implementing the Beijing Platform for Action

—北京行動綱領実施における UNFPA の経験—



UNFPA
United Nations
Population Fund

女性の地位向上と女性と男性の平等の達成は、人権の問題であり社会正義の条件である。したがって、女性問題として他の問題と分離して単独でとらえられるべきではない。それは持続可能な、公正な、開発された社会を構築する唯一の方法である。女性のエンパワーメントと女性と男性の平等は、すべての人にとって、政治、社会、経済、文化、環境面での安全保障を得るうえで前提である。

—第4回世界女性会議行動綱領、パラグラフ41—

女性のエンパワーメントに向けて

北京行動綱領実施におけるUNFPAの経験

目 次

序

北京行動綱領12の重点領域	2
1. 女性と貧困	4
2. 女性の教育と訓練	5
3. 女性と健康	6
4. 女性に対する暴力	10
5. 女性と武力紛争	12
6. 女性と経済	13
7. 権力と意思決定における女性	15
8. 女性の地位向上のための制度的な仕組み	16
9. 女性の人権	17
10. 女性とメディア	19
11. 女性と環境	20
12. 少 女	22
参考文献	24

序

ジェンダーの平等と公正の向上、女性のエンパワーメント、女性に対するあらゆる種類の暴力の排除、女性が自らの生殖能力をコントロールする能力を守るとは、人口・開発プログラムの基礎である。女性と少女の人権は、普遍的な人権の奪うことのできない、欠くことのできない、不可分のものである。女性が国家、地域、国際レベルにおいて、市民生活において、経済的、政治的、社会的生活に完全かつ平等に参加すること、性を理由としたあらゆる形態の差別を根絶することは、国際社会の優先目的である。

国際人口開発会議、行動計画 原則 4

1990年代に開催された2つの主要な国際会議、1994年カイロにおける国際人口開発会議（ICPD）、1995年北京における第4回世界女性会議は、世界の女性の権利と健康の国際基準に大きな変革をもたらした。

ICPDでは、家族計画、人口再生産に関わる健康（リプロダクティブ・ヘルス）およびセクシャル・ヘルス（性行動に関する健康）、女性のエンパワーメント（権能の向上）が開発という観点から明確にとらえられ、社会、経済の発展に決定的に重要であることが強調された。北京における会議ではさらに、世界の全女性とともに、そして全世界の女性のために、平等、開発そして平和を推進する国際公約を創り出した。

この2つの国際的な合意において、女性と男性の平等は人権の重要な問題であり、女性のエンパワーメントは、持続可能で公正な社会の発展を確実にするものであり、女性がつまみ生産（プロダクティブ）と人口再生産（リプロダクティブ）の両方の役割を考慮しなければ、社会がこの目標に到達することはできない、ということが強調された。2つの国際会議は、政策とプログラムがすべてのレベルでジェンダーの視点を取り入れ、女性の生活とそのニーズに確実に対応すること目標としていた。

北京行動綱領とICPD行動計画は、女性のニーズや権利の問題に全体的にそして統合されたやり方で対応するために、現実の体験の中から引き出された、新しくそして関連する目的を組み込んでいる。それらは以下のような

ものである；

- 女性の人権の保障
- リプロダクティブ・ヘルスへの男性の参加と責任の確保
- 質の高いサービスの供給
- 女性の健康に対する、ライフサイクルを通じた取り組み
- 思春期の若者の性行動に関する健康（セクシャル・ヘルス）とリプロダクティブ・ヘルスのニーズに対する配慮
- HIV/AIDSの予防と治療
- 女性器切除のような女性にダメージを与える文化的慣行を含む、女性に対するあらゆる形態の暴力の排除

両会議の文書には、女性の移民と難民の権利も強調されている。

女性の人権は、ICPD行動計画（ニューヨーク、6月30日～7月2日）の実施状況を検討する1999年国連総会特別会議の主要議題であった。この「ICPD+5」評価活動によって、ICPD以降、大きな進歩はあったものの、女性のリプロダクティブ・ヘルスおよび性行動に関する健康は多くの点でいまなお脅威にさらされていることが明らかになった。北京会議以後の進展状況に対する同様の評価活動は、2000年現在実施中である¹。

ICPD行動計画の実施において国連機関としてリード役を務める国連人口基金（UNFPA）は、カイロと北京で示された役割を実行するうえで重要な役割を果たしている。開発途上国に対する人口問題援助の国際的な最大の資金源であるUNFPAは、開発途上国に対し、一人一人の個人の選択をもとに、リプロダクティブ・ヘルスや家族計画サービスを改善するための援助を行っている。また同基金は各国に対し、持続可能な経済開発を支援することになる人口政策の形成についても援助を行っている。

北京行動綱領は女性のエンパワーや女性の人権を確保するために必要な行動の「12の重点領域」を確認した。それは、女性と貧困、女性の教育と訓練、女性と健康、女性に対する暴力、女性と武力紛争、女性と経済、権力と意思決定における女性、女性の地位向上のための制度的な仕組み、女性の人権、女性とメディア、女性と環境、少女の分野である。

¹訳注：2000年6月にはニューヨークの国連本部で特別総会が実施され、北京から5年の評価は終了している。

これらの分野は多くの場合、相互に密接な関係にあるが、一つ一つを検討することで政策やプログラムの前面に打ち出すことができる。UNFPAは、ジェンダー、人口、開発の連関に重点をおき、領域横断的にプログラムやプロジェクトを支援している。

貧困と経済危機が女性と少女に特に大きな負担を強いてきたという認識に基づき、UNFPAはリプロダクティブ・ヘルスおよび性行動に関する健康サービスおよびその啓発活動とマイクロファイナンス（特定目的小規模信用貸し付け）を結びつけて実施している。

同時にUNFPAは、女性への投資とは、女性が社会の活発なそして価値のあるメンバーとしてその持てる能力を十分発揮すること、もしくは発揮する可能性を妨げている全ての障害を取り除くことである、ということを学んだ。教育と訓練は不可欠である。

リプロダクティブ・ヘルスおよび性行動に関する健康の分野への支援に、同基金の活動資金の60%を配分したことで、多くの国々においてリプロダクティブ・ヘルスと家族計画サービスの利用が増加した。この病気によって女性と少女が被害を受けやすいという観点から、燎原の火のごとく激しい勢いで蔓延するHIV/AIDSの流行と戦ってきた。UNFPAは、思春期の少年と少女に対し——特に少女のニーズに特別に配慮し——サービスと情報を与えるための援助を行い、女性の地位を向上させるためには、男性の積極的な参加が必要であることを強調してきた。

UNFPAは、いたるところで見られる女性に対する暴力に関し、沈黙を破ることを強く擁護する。UNFPAが支援するさまざまな活動を通して、女性の性器切除（FGM）やその他の有害な伝統的慣行の撤廃を主張する。また、UNFPAは非常事態の状況下で生活している人々に対する、リプロダクティブ・ヘルスおよび性行動に関する健康サービスや情報を提供するうえで重要な役割を果たしている。

UNFPAは、意思決定のあらゆるレベルにおける女性と男性の平等な参加を主張する者として、政府および非政府団体の双方に対し、この変革をもたらすために支援を行ってきた。多くの国々でUNFPAが資金提供した活動によって、メディアはこの変化を引き起こすための触媒と

しての重要な役割を果たすことができた。

本報告書は、北京行動綱領の12の重要な領域の各々において、政府と市民社会に対しUNFPAがどのような援助を行ったのか、また現在何を行っているのかということに焦点を当てて取り上げる。UNFPAのすべての活動は、女性の権利が普遍的な、不可分の、奪うことのできない人権であり、保護され促進されなければならないという前提により築かれている。女性の生活のあらゆる場における全面的なエンパワーメントを支援し擁護することによってのみ、ジェンダーの平等は達成できるのである。



重点領域 1

女性と貧困

過 去10年間に貧困の中で生活する女性は、特に開発途上国において、数のうえで男性と比較して不均衡に増加した。これには、経済的な要因に加え、社会的な性役割に対する強い社会通念、および女性の権力、教育、訓練、生産のための資源の利用……、が制限されていることが要因となっている。……貧困は家族全体に影響を与えるが、労働の性による分業、および世帯の福利に対する責任から、窮乏が一層進展する中で、女性は世帯の消費と生産を管理しようと試み、あまりにも大きな負担を負わされている。

—北京行動綱領、パラグラフ48、50—

女性が貧困の重荷に不均衡に苦しんでいることを認識し、北京行動綱領はあらゆるセクターの国際社会に対し次のことを要望する。

- 貧困の中で生活する女性のニーズと努力に対処するため、マクロ経済政策および開発戦略を形成する
- 女性の平等な権利および経済的な資源の利用を確保するため、法律および行政制度を改正する
- 銀行、預金、融資の仕組みや制度を女性が利用できるように提供する
- 「貧困の女性化」の原因、影響、可能な救済法を発見するための研究を行う

今日、12億人以上の人々が1日1ドル以下で生活している。そして、世界で絶対貧困にあえぐ貧困者の大多数が女性である。全世界的に見て、女性の平均収入は男性の50%をわずかに超えているに過ぎない。貧困は女性の健康、特にリプロダクティブ・ヘルスおよび性行動に関する健康に有害である。女性と少女は食事をとる順番が最後になることが多い。女性の健康問題は、他の家族の問題よりも優先順位が低いものとみなされる。少女は売春婦として売られることがあり、母親は、子供に食事を与えるためだけに、自らの身を売らざるを得ないことがある。

全世界で女性の平均収入は男性の50%をわずかに超えているだけである。

女性の経済的なエンパワー

UNFPAの経験から、女性が自らの妊娠出産と経済的生活をコントロールすることによって得られる利益は、それぞれを互いに強化することがわかっている。したがって、1980年代以来UNFPAは、バングラデシュ、ブラジル、エルサルバドル、ホンジュラス、インド、マダガスカル、モロッコ、パラグアイ、スーダンにおいて、リプロダクティブ・ヘルス・サービスと女性のためのマイクロファイナンスを結びつけるプログラムを支援してきた。たとえば、エルサルバドルとホンジュラスでは、地方に住む女性が作物生産用の融資を利用できるようにするための回転資金を設けた。女性の生活のあらゆる面でのエンパワーのため、女性の小規模な事業活動への支援は、ビジネス管理、簿記などの訓練とともに行われた。

スーダンでは、女性が経済的に男性に依存することは、他の面でも依存し続けることになることを認識し、UNFPAは経済的なエンパワーメントに特に重点をおいている。そこで、女性に対し事業設立のための頭金を提供した。その結果、収入の低い女性の生活水準が向上した。スーダンのプログラムにおいて、女性器切除 (FGM) を行う伝統的な出産介添人の再訓練が特別優先事項として実施された。出産介添人達に、女性器切除以外の収入を得る方法を教え、妊娠・出産に関する情報を与え、女性器切除の及ぼす有害な影響に関する情報を与えることで、出産介添人はこのような慣行を放棄するに至った。出産介添人とプログラムに参加した女性達は、所得を上昇させ、借入金を返済することに成功した。

中国では、農村地帯の3つの省で、UNFPAは女性の社会経済的な状態を向上させるためのプロジェクトを支援した。このプロジェクトはたいへん成功し、所得創出のための活動、生産および商売の技能訓練、実用的な読み書き能力、リプロダクティブ・ヘルス・サービスなどを提供することで、1万4千人の女性の収入を上昇させることに成功した。

今後の方向：女性が自らの妊娠出産と経済的生活をコントロールすることによって得られる利益は、それぞれを互いに強化する。したがって、UNFPAの行う女性の経済的なエンパワーメントに対する支援は、女性の生活のあらゆる面におけるエンパワーのための技能習熟やその他の訓練を結びつけて行われている。

重点領域2 女性の教育と訓練

教育は人間の権利であり、平等、開発、平和の目標を達成するためには不可欠な手段である。非差別的な教育は、少女と少年双方に利益をもたらし、その結果として最終的には、女性と男性のより平等な関係に貢献することになる。より多くの女性の変化の担い手となるためには、教育における資格を取得する機会を平等に利用し、資格を取得することが必要である。

—北京行動綱領、パラグラフ69—

世界の多くの国々の女性にとって、教育は奪われることが多く、また否定される人権であることを認識し、北京行動綱領は政府機関および民間機関に対し、以下の目標に向かって行動するよう要望する。

- 教育を平等に利用できるようにする
- 女性の非識字を根絶する
- 職業訓練、科学・技術、継続教育の利用可能性を向上させる
- 差別の無い教育・訓練を展開する
- 教育改革の実施に十分な資源を配分し、監視する
- 少女および女性のための生涯教育と訓練を奨励する

この分野では進歩が見られるものの、男女差別に関する根深い文化的な態度、早婚、妊娠、通学可能な学校の不足、不適切かつジェンダー・バイアスのある（男女格

差を前提とした）教材などのため、少女は依然として差別に直面している。少女は、科学・技術における質の高い教育を受けることを拒否され続けているのである。

**世界の成人非識字人口
9億6千万人のうち、
3分の2は女性である**

世界の成人非識字人口9億6千万人のうち、3分の2は女性である。女性の教育と子供の生存との関係は劇的である。ケニアでは教育をまったく受けていない女性の子供の10.9%が5歳までに死亡するが、初等教育を受けた女性の子供の死亡は7.2%、中等教育を受けた女性の子供の死亡は6.4%である。



少女への教育の継続

世界の96カ国においてUNFPAは、学校内や学校外における若者のための教育活動を支援している。また、その他に30カ国で若者に対するカウンセリングやその他のサービスを行っている。このような活動には、情報、教育、コミュニケーション・プログラム、家族生活教育が含まれる。UNFPAの各国プログラムでは、女性の地位および家族や社会に対する女性の貢献への認識を高めるため、訓練用の教材開発も行っている。

ボツワナにおけるUNFPAのプログラムでは、若い母親達への教育の継続を支援し、他の女子生徒のためにピア（仲間）カウンセラーとなる訓練を行うことで、十代の妊娠問題に取り組んだ。200人以上のピア（仲間）カウンセラーが、リプロダクティブ・ヘルスおよび性行動に関する健康に関連した問題を討議する週1回の会合を通して、約5,000人の生徒に影響を与えた。これらの学校では、十代の妊娠が著しく減少した。

ジャマイカでもUNFPAは、(財)ジャマイカ女性センター (the Women's Centre of Jamaica Foundation) が運営する同様のプログラムを支援している。10,300人以上の妊娠した十代の少女達に対し、主として、教育を継続させ、収入のある仕事を見つける手助けをするために、職業訓練やカウンセリング、また家庭裁判所、訓練所、開業医のような団体への照会を行った。6,500人以上が学校へ復帰し、2,500人以上が技術的な技能を修得した。さらに、3,000人以上を訓練所に紹介した。その大部分が現在も就業中であり、(その後の妊娠出産はなく)子供は1人のみである。かつての中途退学者は復学し、出産後にはほとんど全員が避妊を選択した。

今後の方向：教育と訓練は変化のための触媒となるものであり、女性が自らの持つ能力を十分に発揮できるようにするものである。女性や少女に対する教育支援は、彼女らの福祉やリプロダクティブ・ヘルスおよび性行動に関する健康のために決定的に重要である。

重点領域3

女性と健康

女性は達成可能な最高水準の身体的、精神的健康を享受する権利を有する。……良好な健康状態は、生産的で充実した生活をするうえで必須であり、すべての女性が自らの健康のあらゆる面、特に生殖能力をコントロールする権利は、女性のエンパワーメントの基本である。……しかし、健康と幸福は多くの女性にとって縁のないものとなってしまっている。

—北京行動綱領、パラグラフ89、92—

北京行動綱領は、達成可能な最高水準の身体的、精神的健康を享受する女性の権利を改めて確認しているが、多くの女性はその権利を享受できていないと言及している。したがって、同綱領は政府機関および民間機関に対し、以下のことを要望する。

- あらゆる年齢の女性が入手できる、適切かつ利用可能な価格のヘルス・ケアと情報を構築する
- 女性の健康を促進する予防プログラムを強化する
- 性行為感染症、HIV/AIDSそして性行動に関する健康とリプロダクティブ・ヘルスの問題を解決に向けて、ジェンダーに配慮したプログラムを開始する
- 女性の健康に関する研究を奨励し、情報を普及する
- 女性の健康に対する資源を拡大し、その成果をモニターする

**妊産婦罹病率と死亡率の高さは、
大部分が
男女間の不平等に起因する**

リプロダクティブ・ヘルスおよび性行動に関する健康および女性の権利は、UNFPAの活動の中心である。この作業のカギとなるのは、質の高いサービスへのアクセスと利用可能性を増大させることであり、UNFPAの活動資金の60%がこの目的にあてられている。(妊娠・出産など)人口再生産に関わる問題が原因で不健康という重荷に耐えている女性は男性よりはるかに多く、世界の多くの地

域において妊産婦の死亡率は、いまなお受け入れがたいほど高い。たとえば、サハラ付近の国々では、10万人に対し1,200人である。質の高い、支払い可能な価格でのリプロダクティブ・ヘルス向けサービスを女性と男性が利用できれば、このような悲劇のほとんどを回避することができる。

高い水準の妊産婦罹病率と死亡率は、大部分が男女間の不平等に起因するため、必然的に女性のエンパワーメントがこの問題への取り組みのカギとなる。

リプロダクティブ・ヘルスと 性行動に関する健康面のサービス および情報へのアクセス増加

UNFPAは、質の高いリプロダクティブ・ヘルスの情報とサービスを提供し管理する各国の対応能力を向上させるために努力している。成人と若者によるサービス利用の増大、サービス提供者の訓練、ガイドラインの標準化、避妊や基本的な医療用設備の供給、既存の設備の改善を行うなど、多面的アプローチを採用している。

エジプトでUNFPAは、リプロダクティブ・ヘルス、家族計画、性行動に関わる健康について看護婦のカウンセリング技能を改善し、拡大するための支援を行った。地方のコミュニティでコミュニティ・カウンセラーを務める看護婦を援助するため、英語とアラビア語のマニュアル、パンフレット、オーバーヘッド・プロジェクター用のシート、ビデオ・クリップなどが作成された。カウンセラー達の活動の結果、現在では男女共にリプロダクティブ・ヘルスや性行動に健康に関連する質問をしてくるようになり、避妊具サービスや出産前後のケアを求めている。

性行動ならびにリプロダクティブ・ヘルスに対するサービスは、あらゆる年齢の女性に提供されているが、同様にもしそれが文化的に見て適切である場合には、女性とは別の経路を通して男性や思春期の若者にも提供される。多くの場合、女性のリプロダクティブ・ライツ（人口再生産に関わる権利：妊娠と出産についての自己決定権）の促進もサービスの一部となっている。

パレスティナ占領区（the occupied Palestinian territories）では、UNFPAはガザにあるアルバーレイ（Al Burey）難民キャンプで、女性センター設立への援助を行った。センターでは、包括的なリプロダクティブ・ヘルス・サービスと社会的な援助、リプロダクティブ・ライツを含む女性の権利に関するカウンセリングを提供する。センターは、文化・自由思想協会（the Culture and Free Thought Association）により運営されており、イタリア開発における女性協会（the Italian Association for Women in Development）による技術援助を受けている。

HIV/AIDSを含む性行為感染症の予防

HIVに感染した女性の数は、男性の数に急速にせまりつつあり、超えようとしている。1990年現在、3,240万人の成人感染者のうち、1,480万人が女性である。アフリカではHIV抗体反応陽性（感染者）の女性の数は現在、男性の感染者数より200万人多い。女性は不幸にも男性に比べ生物的、文化的双方の要因により、HIV/AIDS感染のリスクにより多くさらされている。



UNFPAの多くのプログラムが、感染から女性と少女を守る教育や避妊法を実施することで、このリスクと闘っている。1998年にUNFPAは、131ヵ国においてAIDS予防活動を支援した。128ヵ国では、特に若者向けの（ヒト免疫不全ウイルス）HIV／（後天性免疫不全症候群）AIDS予防活動プログラムを支援している。22ヵ国では、男性に焦点が合わせられた。これは、この病気が男性の行動により最も広がりやすいためである。

フィリピンでは、UNFPAと女性ヘルス・ケア基金(the Women's Health Care Foundation)は、地域の訓練されたヘルス・ワーカー、路上生活者の若者、路上の飲食物販売業の人達と協力してリプロダクティブ・ヘルス面でのサービスの利用を改善するために働いている。女性ヘルス・ケア基金は、感染検査の照会などSTD（性行為感染症）／HIV／AIDSに対する医療サービスを提供しており、都会の貧しい女性や性を職業とする女性への教育やカウンセリング・セッションを行っている。また男性や若者を対象としたサービスも提供している。UNFPAは、カウンセリング及びコミュニティ教育に従事するサービス提供者やボランティアのヘルス・ワーカーへの訓練を支援し、性行為感染症や性に関する疑問に答えるテレホン・サービスへ資金援助を行った。

ドミニカ共和国におけるUNFPAのプロジェクトは、情報、教育、コミュニケーション、ヘルス・ケア提供者の訓練、コンドームの支給に焦点を合わせたものである。女性は性行為感染症の検査を受け、性行為感染症であると診断された場合には治療が施されている。血液銀行の血液も病気に対する検査が行われ、選別が行われている。約360人のピア（仲間）・エドゥケーターが、HIV／AIDSに対する認識を高めるため、プライマリー・ヘルス・ケア・システムに協力した。コンドームの使用が増加し、女性は性行動やコンドームの使用について話し合っただけで決めることが容易になった。

妊産婦死亡率と罹病率の低減——安全な母性

UNFPAは、妊娠は女性の全体的な観点から捉えられるべきであり、妊産婦死亡率の低減には、安全な母性に対する認識を深め、ヘルス・ケアと女性のヘルス・ケアへの

の利用可能性を増し、少女と女性の生涯を通じた特別のニーズを満たす包括的なアプローチが必要であると考えられる。UNFPAは妊娠や出産による死亡は、すべての国の法律、政治、医療制度を通じて取り組むべき課題であり、女性のリプロダクティブ・ライツの侵害であり、社会正義に反するものであるととらえる。

したがって、UNFPAはほとんどの国の国内プログラムにおいて以下の支援を行っている。

- 家族計画サービス
- 伝統的な出産介添人、助産婦の訓練
- 基本的な産科ケアに必要な設備と消耗品の供与
- 照会システムの強化
- オペレーション・リサーチ（プログラム運営研究）
- コミュニティ教育と人口問題啓発プログラム

ウガンダでは、地方救急救命プログラムにより妊産婦死亡が低減し、加えて出産時における緊急事態が発生した場合には、伝統的な出産介添人、診療所、病院が連携した照会システムを通ず、医学的に管理された出産が増加した。救命用の備品、設備が提供され、その使用方法についての訓練を要員に施した。診療所や病院への交通手段も提供された。

少女は特に、リプロダクティブ・ヘルスおよび性行動に関する健康面でのリスクにさらされている

思春期のリプロダクティブ・ヘルスへの取り組み

国際社会では、若者、特に少女達が被害を受けやすく、リプロダクティブ・ヘルスおよび性行動に関する健康問題のリスクにさらされているという認識がますます高まっている。無知、ジェンダーの関係における立場が弱いこと、社会的に認められていないことおよび資金が十分ではないことによりリプロダクティブ・ヘルスがほとんど提供されないこと、提供者の否定的な態度、性的虐待や暴力により被害を受けやすいことが共通した危険性としてあげられる。十代の母親とその子供は、成人女性とその子供より病気にかかりやすく死亡しやすい。思春期の

妊娠、出産、安全でない中絶は、若い女性の経済的機会、教育機会を奪うことになる。

UNFPAは、この思春期人口にリプロダクティブ・ヘルス面のサービスと情報を与えるための画期的な手段の開発に努力してきた。思春期の少女たちのニーズに敏感になり、政策や法の改正を擁護し、青少年センターやピア（仲間）・エデュケーターとしての若者グループを支援するため、ヘルス・ケア提供者の訓練を行った。多くの国々で、UNFPAは少年・少女のための「人口と家族生活教育」プログラムを支援している。

UNFPAは128ヵ国において、青少年センター、ピア・エデュケーター（同世代の啓発活動家）、またテレビのシリーズ番組までも使って、若者向けのHIV/AIDS予防活動に携わっている。

ウガンダでは、同世代の仲間によるリプロダクティブ・ライフ強化プロジェクト（the Peer-Enhanced Adolescent Reproductive Life project）が、若者に対し情報やサービスを提供し、また社会的に教育するために、多目的青少年センターを支援している。地域やコミュニティのリーダー、両親、宗教指導者達も参加している。

男性参加の増加

女性の生活において、リプロダクティブ・ヘルスおよび性行動に関する健康を守るうえで、男性の果たす役割は重要である。男性も自分自身のリプロダクティブ・ヘルス面で満たすべきニーズを有する。したがって、UNFPAは家族生活において責任を持たなければならないすべての分野で男女の協力関係を促進する。特に、男性が責任を分担し、そこに積極的に働きかけていく分野として、親としての役割を責任を持って果たすこと、性行動に関わる健康とリプロダクティブ・ヘルス、性行為感染症の予防、共に家計を管理し家計収入に貢献すること、子供の教育と健康そして子供に男女両性の価値が同じであると教えること、がある。

ナミビアでは北西部の地域において、男性からリプロダクティブ・ヘルス問題についてもっと多く学びたいと

いう要望が出され、男性のみを対象とした多くのディスカッション・グループが作られた。これらのグループは、リプロダクティブ・ヘルスや家族計画だけでなく、ジェンダーに関わる問題や個人の意思決定をテーマに討論した。UNFPA主導のこのプロジェクトの結果、男性のリプロダクティブ・ヘルス教育への参加が増大するという成果がもたらされた。

文化的に保守的な地域においてさえ、男性を対象としたコミュニティ教育をおこなうことで、男女ともに避妊利用をより一層促進させることができた。パキスタンでは、地域の教育担当者のチームが家庭訪問、コンドームやその他の避妊具の配布、診療所への照会などの活動を通して、家族計画の促進を行った。保守的な人々の反発が懸念されたものの、男性は家族計画を受け入れたばかりでなく、教育担当者（女性）に自分の妻との話し合いを要望した。

健康と権利の統合

UNFPAは、女性が知識や技能を持ち自らの健康を守り、リプロダクティブおよびセクシャル・ライツを正しく主張するという女性のエンパワーメントを支援する。

モロッコでは、UNFPAのリプロダクティブ・ヘルス・プログラムがモロッコ厚生省を支援し、サービスが最も行き届いていない地域に質の高いリプロダクティブ・ヘルス・サービスと情報を提供している。これにより、リプロダクティブ・ヘルスにおける男性の責務を促進し、女性のための識字プログラムを実施している。さらに、学校や若者の組織における住民教育のスポンサーとなっている。

今後の方向：多くの国々では、女性の罹病率と死亡率はいまなお受け入れがたいほど高いが、総合的なリプロダクティブ・ヘルスおよび性行動に関する健康面のサービスと情報を通じてのみ、これらの低減は可能となる。自己の人口再生産と性行動を自主的に管理することは、自動的にその人の生活のその他の分野もコントロールする鍵となる。

重点領域 4

女性に対する暴力

すべての社会において女性と少女は、程度の差はあるものの収入、社会階層、文化……を問わず、身体的、性的、心理的な虐待の対象とされている。女性に対する暴力は、女性による人権および基本的な自由の享受を侵害し、妨害し、あるいはまったく享受できなくさせてしまう。

—北京行動綱領、パラグラフ112—

国際社会では、女性に対する暴力は、女性の人間としての権利を侵害することであるという認識が高まりつつある。したがって、北京行動綱領は以下のことを強く求める。

- 女性に対する暴力を防止するための、包括的な措置を講じる
- 女性に対する暴力の原因とその影響および防止法の効果を研究する
- 女性の売買を根絶し、売春および人身売買による暴力の犠牲者を援助する

世界中のどこであっても
すべての社会的・経済的グループにおいて
女性に対する暴力が存在する



女性の生活とその持てる可能性は、女性であるという理由だけで向けられる暴力の危険にさらされ続けている。女性に対する暴力は、世界中で社会・経済的グループを問わず存在し、女性や少女の売買、強姦、子供に対する虐待、性的虐待、少女や女性のリプロダクティブ・ヘルスおよび性行動に関する健康を回復不可能なほど損傷する有害な慣習や因習およびしきたりなどの幅広い人権侵害を含む。

ジェンダーに基づいた暴力は、健康と人権に関連する重要な問題である。UNFPAは政府、非政府機関(NGO)、地域社会と協力し、虐待された女性のための法的サービス、女性の避難場所(シェルター)とケアなどの支援を行っている。法および政策の見なおしと改正を呼びかけ、女性と男性の平等の問題や女性に対する暴力に関する情報提供、教育、コミュニケーションを通じて支援している。カウンセリング、リプロダクティブ・ヘルス・サービス、生活を支える技能取得のための活動が、暴力の犠牲者に提供されている。

女性器切除の廃絶

UNFPAは、女性器切除の慣習が、女性のリプロダクティブ・ヘルスおよび性行動に関する健康に有害な影響を与えるだけではなく、女性の基本的人権の侵害でもあるという観点からこの問題に取り組んでいる。女性器切除が広く行われている国々では、女性器切除の根絶活動がUNFPA活動の中心部分に組み込まれている。女性器切除についての情報、教育、コミュニケーションは、親、教師、地域のリーダー達を対象としている。啓発活動、政策および法の改正、リプロダクティブ・ヘルスおよび性行動に関する健康ケアの普及を平等に支援している。

1995年から、サビニー・エルダー協会(Sabiny Elder's Association)のメンバーとウガンダのカプコルワ(Kapchorwa)地区の部族長達に対する、国内NGOによるリプロダクティブ(人口再生産)教育および地域の健康プログラム(REACH)の結果、女性器切除の有害な影響に対する意識変革が行われた。このプログラムでは、政策策定者、医療専門家、親、思春期の若者向けの、情報、教育、コミュニケーション活動が提供される。この

プログラムでは、文化的な価値を危うくすることなく、女性器切除の慣行を変えることができることが強調されている。このプログラムでは、ダンスや象徴的なプレゼントを贈ることなどを含む成人への通過儀礼を示す儀式が奨励されるが、実際の切除は行われない。

サビニー・エルダー協会は、この慣習を象徴的なプレゼントやその他のお祝いの行事に置き換えることを提案し、所属するコミュニティのメンバーに女性器切除の有害な影響について説いた。1994年から1996年の間に、女性器切除は36%低下した。現在この革新的で文化的に十分配慮したアプローチは、マリなど他の国々で模倣されている。

スーダンではこれとは別に、自らが属するコミュニティ内で働くボランティア・グループと共に、女性器切除に対する認識を高めるための活動を行っている。この「友達の輪」(the Circles of Friends)は、さまざまなリプロダクティブ・ヘルスに関する問題、特にあらゆる形態の有害な伝統的慣行についてコミュニティのメンバーと話し合う。「友達の輪」のボランティア達は各々が自分の住むコミュニティの出身である。したがって彼らは文化的な背景、そこにある規範や姿勢を良く知っており、リプロダクティブ・ヘルスに関する情報、特に女性器切除のように十分な配慮の必要な問題に関する情報を広めるうえで、最も受け入れられやすく、信用される人間でもある。

沈黙を破る

ジェンダーに基づいた暴力は、社会のあらゆるレベルにおける、(そのようなことについて公言するものではないという)沈黙の文化と虐待が健康に及ぼす影響の重大さを無視する環境の中に存在する。UNFPAはプログラムを通して、この沈黙を破り、女性の声が聞こえるようにするため努力している。

たとえば、UNFPAは中南米とアフリカにおいて、女性と少女に対する暴力根絶を提唱するキャンペーンに参加した。「暴力の無い生活は私達の権利である」のモットーの下に、政府、女性グループ、NGO、大学、医療専門家、

学生、メディア、警察、宗教グループとともにUNFPAは加わった。具体的な戦略には、メディアとともに活動し、政治的な公約を引き出し、権利や法律に対する認識を高め、ジェンダーに基づいた暴力の分析、法律の通過と施行、防護・保安要員の訓練などを含んでいる。

モロッコでは、司法省との共同プロジェクトとして、家庭内暴力の発生原因の究明とどのような社会集団が最も被害を受けやすいかということをはっきりさせるために、その底流に流れる傾向を特定しようとしている。暴力の犠牲となっている女性からの訴えを処理し、その状況を分析するための試験的なシステムが整えられた。プロジェクトの結果は、地域における対応や照会システムを通じて、女性に対する暴力と闘ううえで一致協力した対応が取れるよう、意思決定者、行政官、判事、警察官、医療専門家、研究者等の意識啓発に利用される。

ケニアでは、警官、警察署長、副署長を対象とした、ジェンダーに基づいた暴力に関する革新的な男性意識変革ワークショップが開催された。コミュニティ全体の認識を高めるため、市場の広場では劇が上演された。数カ国の女性がさまざまな身体的、精神的な虐待に関する話を語る模擬法廷である「アフリカ女性裁判所」に対する援助が行われた。UNFPAの支援を受けて、著名な新聞漫画家によりジェンダーに関する問題、特に女性への暴力に関する漫画本が描かれた。

今後の方向：女性に対する暴力は、世界のいたるところで相変わらず続いている。UNFPAは、ジェンダーに基づいた暴力を、健康と人権に関わる主要な取り組みべき課題として前面に打ちだし続けている。女性の声は聞かれなければならない、UNFPAは、女性が声をあげ必要な援助を受けることを可能にするため、あらゆる努力をする。

重点領域 5

女性と武力紛争

世界平和を維持し人権の促進・保護……を行う環境は、女性の向上にとって重要な要因である。平和は、女性と男性の平等および開発……に不可分に結びついている。武力紛争の状況下における女性に対する人権侵害は、国際的な人権および人道主義的な法律の基本的原則を侵害することになる。武力紛争時や地域社会の崩壊時には、女性の役割はきわめて重大である。武力紛争あるいは他の紛争の真っ只中において、社会秩序を維持するために女性がしばしば活躍する。女性は家族においても社会においても、平和教育者として重要な貢献を果たすが、この貢献は認識されないことが多い。

—北京行動綱領、パラグラフ131、139—

北京行動綱領は、戦争が女性に与える影響を解消し、女性が平和教育者としてしばしば決定的な役割を家族や社会で果たすことから、以下の活動を行うことに合意した。

- 紛争解決への女性の参加を増大し、武力紛争並びに外国の占領下で生活する女性の生活を保護する
- 過剰な軍事費を削減し、兵器が使用される機会をコントロールする
- 非暴力による紛争解決を促進し、紛争中の人権侵害事件を低減させる
- 女性難民に対し、保護、援助、訓練を提供する
- 植民地や自治権を持たない地域の女性に援助を提供する

国連難民高等弁務官事務所の統計によると、今日、世界の難民の数は推定2,140万人である。世界の難民の80%が女性と子供である。コミュニティ全体が武力紛争やテロの影響に苦しむ一方、女性と少女は危機状況によって悪化した社会的不平等のために最も苦しんでいる。社会構造の崩壊にともない、女性と少女は無法者のなすがままになり、暴力、性的虐待、強姦などの対象となっている。

今日、世界の難民の数は
2,140万人と推定される

難民のニーズに対する取り組み

UNFPAは、危機的状況下にある女性および男性のリプロダクティブ・ヘルスおよび性行動に関する健康のニーズに取り組むプログラムを支援する。難民のリプロダクティブ・ヘルスを確保し、女性難民を性的暴力から保護することは、紛争や自然災害時においては優先課題である。

UNFPAと国連人権高等弁務官は、世界保健機構(WHO)、国連児童基金(UNICEF)、国際赤十字・赤新月社連盟と協力し、緊急状況下にある女性のリプロダクティブ・ヘルスのニーズに応えるため、合同でイニシアティブを取った。このプログラムでは、家族計画、出産介助、安全でない中絶による合併症（難民の場合、妊産婦死亡の25%から50%が中絶後の合併症による）、性的暴力と強姦（この場合の措置としては性交後緊急避妊を含む）、HIV/AIDSを含む性行為感染症の予防などに関するニーズに取り組むため、要員の訓練、施設設備、補充品を提供する。

配布用として緊急用リプロダクティブ・ヘルス・キットが備蓄された。UNFPAは、1999年4月アルバニアのキャンプへ脱出したコソボ難民に対する緊急リプロダクティブ・ヘルス援助として、この備蓄資材を使用した。

ボスニア・ヘルツェゴビナでは、内戦で身体的・精神的に外傷を受けた女性向けのリプロダクティブ・ヘルスに関する情報と教育活動に資金を提供している。

タンザニアでは、UNFPAは隣国のコンゴ民主共和国における戦争から逃れた難民のためのプロジェクトを支援した。同プロジェクトに対する評価が行われ、難民のニーズ、特に照会、救急産科ケア、設備と補充品の準備に関しては、ニーズに応じていることが確認された。このような努力の結果、サービスの質が劇的に向上し、それに従って妊産婦の死亡低減が認められた（*Annual Report 1998*, UNFPA）。

今後の方向：UNFPAは、すべての女性と男性は良好な生産性・ヘルスおよび性行動に関する健康に対する権利を有すると強く信じる。今日世界中に数多くの紛争が存在しているという観点から、UNFPAは緊急状況の下にある人々、特に戦争による犠牲者となった女性のための生産性・ヘルスおよび性行動に関する健康面のサービスに対する支援を促進する。

重点領域 6 女性と経済

多くの女性は……彼女達の経済的な自立を達成し、彼女達自身とその扶養家族の生計を持続可能に維持できる能力を阻害するさまざまな障害にさらされ続けている。女性は経済の幅広い分野で積極的に働いており、賃金労働に従事しながら自分たちの日々の食料をまかなう農業や漁業も行っている者からインフォーマルセクターに従事しているものに至るまで、しばしば同時にいくつもの仕事をしている。しかしながら土地の所有や利用、天然資源、資本、金融、技術、その他の生産手段に関する法的・慣習的な障壁や、同様に賃金格差があいまって女性の経済的な向上を妨げている。

—北京行動綱領、パラグラフ156—

女性が経済的に依存状態にあること、またしばしば財産権が欠如し、融資を利用することができないことが、女性の持つ、自らとその家族の面倒をみることができる能力を長年にわたって抑圧してきた。したがって、北京行動綱領は、以下の措置を講じることを勧告する。

- 雇用および適切な労働条件および経済資源のコントロールを得られることを含む、女性の経済的な権利と自立を促進する
- 資源、雇用、市場および商業取引を女性が公正に利用可能となるよう促進する

- 特に低所得の女性に対し、ビジネス・サービス、訓練を提供し、市場、情報、技術を利用可能にする
- 女性の経済的な能力と商業的なネットワークを強化する
- (男女を理由とした) 職業分離およびあらゆる形態の雇用差別を撤廃する

**女性の収入は男性より低く、
1人当たり国内総生産は
男性の約半分である**

女性は、管理職および専門職における男女格差を埋めることに関しては大幅な進歩を遂げたが、失業率は依然として男性より高い。さらに、世界的に見ても女性はいまだに男性より収入が低く、世界の女性一人当たりGDP(国内総生産)は4,523ドルであり、男性の8,103ドルの約半分である(UNDP:『人間開発報告-1999-』)。経済のグローバル化や東南アジアにおける経済危機のような近年の経済的、政治的な展開が、多くの国々の女性や少女に深刻な影響を及ぼしてきた。社会部門への投資の減少は、その金額が少なくなった以上の大幅な影響を女性に及ぼし、女性の健康を明らかに害する人身売買や売春の増加につながった。

女性の経済的自立の増加

近年の支援プログラムで最も成功したタイプの1つは、女性のための小額融資モデルである。これは通常、識字教育とビジネス・トレーニングが組み合わされている。インド、ネパール、ニカラグア、ベトナム、イエメンでは、女性が小規模な事業を創設するか収入を補填することができた。その過程で借入金を返済することにより、次の女性グループへの資金調達を可能にした。

UNFPAは、女性、特にきわめて貧しい非識字女性に対し、収入確保を可能にするプロジェクトを支援している。女性に自営などのようなきわめて小規模事業のための融資や資本を利用できるようにする支援を提供することで、女性が生産活動を管理できることを教えるものである。経済的な従属が減ることで、これらの努力は女性の自尊心を支え、自らの健康と生活に影響を与える性行動およ

びリプロダクティブ・ヘルスに関する意志決定に、より効果的に参加するための力を与えることになる。その結果、多く的人是は初めてコミュニティ内部の声に気づくことになった。

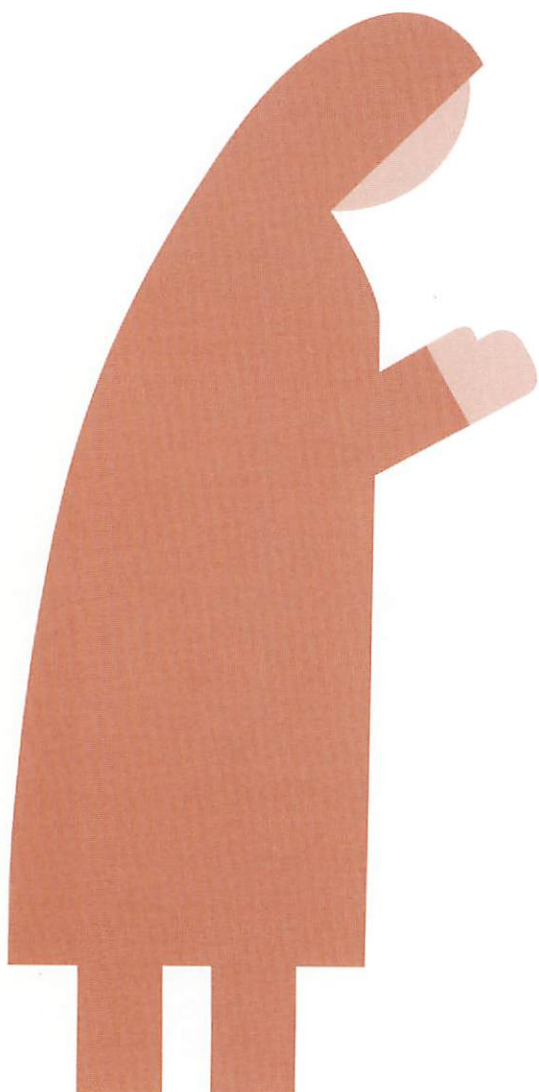
たとえばベトナムでは、UNPAは農業生産を行ううえで銀行から融資を受けることができる適格団体になるために、農村の女性が預金グループを結成するための訓練に対して支援を行った。イエメンでは、地方政府、NGO、民間部門と協力し、ビジネス・トレーニングの提供を援助した。

グローバル化の及ぼす影響の軽減

経済危機の影響を緩和するため、UNFPAは特に貧しい女性、先住民の女性と少女に重点をおいて、経済的、政治的、身体的な女性のエンパワーメントを支援する。

UNFPAはまた、女性と少女の人身売買に取り組む活動を支援している。カンボジア、ラオス、ミャンマー、タイ、ベトナム、中国雲南省からなる大メコン地域(The Greater Mekong Sub-region)におけるプログラムでは、政府、非政府機関が国連関連機関と協力し、人身売買に関するデータベース設立のための研究を行った。この活動には、人身売買の防止と教育、救出と再定住、法律の強化も含まれる。

今後の方向：経済危機が国家を襲うと、真っ先に被害を受けるのは女性と子供であり、女性のリプロダクティブ・ヘルスおよび性行動に関する健康は経済状況の悪化の中で危険にさらされることになる。UNFPAは、女性が一生涯を通し健康と福祉を確保するためにできる限りの努力を行うことを再確認し、女性の経済的な自立を増進させるための支援を続行する。



重要問題領域 7

権力と意思決定における女性

女性は、官公庁だけではなく地域社会や非公式機関において、顕著なリーダーシップを発揮してきた。しかし、男女の社会化やメディアにより形成されたものも含む否定的な固定観念により政治的な意思決定においては男性優位が続く傾向を強めている。同様に、芸術、文化、スポーツ、メディア、教育、宗教、法律の分野でも、意思決定への女性参加の乏しさが、多くの主要な制度に女性が大きく影響を与えることを阻害してきた。

—北京行動綱領、パラグラフ183—

北京行動綱領は、公共部門における男女の権力の大きな格差に取り組む。行動綱領は政府、国際社会、非政府機関、民間部門を含む市民社会に対し、以下の目標を達成するための措置を講じるよう強く求めている。

- 権力構造および意思決定への、女性の平等なアクセス及び全面的な参画を確実にする
- 意思決定および指導的立場への女性の参加能力を高める

すべての国で、いまなお
政府のどのレベルでも
女性の占める割合は少ない

多くの国々で、政府および意思決定過程のすべてのレベルにおいて、女性の代表者を増大させるための措置が講じられてきた。しかし、その進展速度は遅々としたものである。すべての国で、政府の各レベル、特に政府の大臣や幹部職員、そして立法府においてはいまなお女性の代表者は少ない。たとえば、全世界で国会の議席に占める女性の割合はわずか12%である。アラブでは3.7%、先進工業国では19%となっている（UNDP：1999年人間開発報告書）。

意思決定における女性の役割の増大

UNFPAは、家族、コミュニティ、政治、政府における意思決定段階への女性の参画を増大するための意識向上活動を支援する。UNFPAの人口政策分野に対する援助により、女性と女性NGOは政策策定に積極的に参画することが可能となった。

1995年以来、UNFPAはアフリカの女性大臣と国会議員による会議を3回主催してきた（1995年ブルキナファソ、1996年タンザニア、1998年モーリシャス）。女性大臣と国会議員にとってこれらの会議は、ジェンダーの平等に関する問題を主張し、ジェンダーの不平等を根絶するための地域戦略開発を行う能力を強化する機会となった。モーリシャスの会議では、女性に対する暴力の排除、有害な伝統的な慣習の根絶、思春期の若者に対するリプロダクティブ・ヘルス面での支援、これらの問題について各国の指導者たちのオープンな討議の奨励などを参加者が誓った。UNFPAはまた、たとえばボリビア、カメルーン、ギニアにおいて、女性の国会議員と大臣のネットワーク作りを支援した。

今後の方向：女性と男性の平等は、あらゆるレベルの意思決定過程を行う立場に男女が平等に参画する場合に限り、達成可能となる。しかし、現実には依然としてこれとはかなり異なる。従って、UNFPAは、家庭、社会、国家・国際レベルにおける男女の平等な権力とリーダーシップの分担に向けての変革を支援する。

重要問題領域 8

女性の地位向上のための制度的な仕組み

各 国の（女性の地位向上のための）国家機構はその様態においてさまざまであり、その効果は一様ではなく、なかには衰微しかけているものもある。多くの場合、国家機構の片隅に追いやられ、それらの組織はしばしば不明確な方針、適切な要員・訓練・データ・十分な資源などの欠如、国内の政治的指導者からの支援不足によりその機能が妨げられることがある。

—北京行動綱領、パラグラフ196—

北京行動綱領は政府に対し、国内制度の中で女性の地位向上を真剣に考慮するよう要望し、以下のことを勧告する。

- 国家機構、その他の政府組織を創設または強化する
- 立法、公共政策、プログラム、プロジェクトにジェンダーの視点を取り入れる
- 立案および評価のためのジェンダー別のデータや情報を作成、普及する

ほとんどの国には、
女性問題に専任する
女性局、女性省が存在する

ICPDおよび北京会議以降、多くの国々が女性の地位向上のために国内機関設立あるいは強化に資金を投じてきた。ほとんどの国には現在、女性問題を担当する専任の女性局、女性省が存在する。しかしながら、多くの場合それらの担当部局はいまだに片隅に追いやられ、要員不足や資金不足に苦しみ、その効果は大きく損なわれている。

女性の地位向上のための各国国内機関支援

UNFPAは、女性の地位向上のためのNGO活動に対し、

プログラム、プロジェクト向けの資金を出しており、UNFPAの国内プログラムは同じ目的のため、制度構築のための各国政府の努力を支援している。

たとえば、UNFPAはパプア・ニューギニアのプロジェクト支援において、パプア・ニューギニアの政治における女性（Papua New Guinea Women in Politics）という組織が女性のエンパワーメントを訴えかけ、女性問題への関心を引き出そうと努力している。その目標は、女性の政治参加および政府のあらゆるレベルにおける代表権を強化することである。グループの活動には、政府とその制度の中で学んだ教訓および最良の実践を共有することなどが含まれる。このプロジェクトでは、政治家の候補者および有権者に政府の諸制度について教育し、女性問題に関する公共サービス、法制度を知らせる支援を行った。

フィリピンでは、UNFPAは18の州で活動する地元NGOに資金援助を行い、政府からのサービスを補填している。NGOは、接触しにくいグループ、たとえば性を職業とする女性、未婚の女性や思春期の少女にサービスを提供する。貧困層や社会から取り残された人々に対してもサービスを提供する。ジェンダーに配慮したサービス、情報、コミュニケーション活動を提供することにより、これらのNGOは女性のエンパワーメントを促進し、男性の参加を拡大し、思春期のリプロダクティブ・ヘルス面での問題に取り組んでいる。

ICPD合意（“ICPD+5”）実施の成果に対する正式な検討を行っている期間中に、数多くのUNFPA各国事務所から、人口政策の見直し、女性の権利をより良く保護し、ジェンダーの平等を促進するための法律と憲法の改正、妊産婦死亡率を低減するための医療サービスの強化と再編、リプロダクティブ・ヘルスに対する包括的なアプローチなど、関連制度の変革があったとの報告がなされた。

たとえばイランでは、UNFPAは、女性問題局の強化プログラムを支援している。UNFPAの支援は、国家レベル、州レベルの両方で女性が政策形成への参画を拡大することで、国家規模でのジェンダー問題への意識を高める訓練を行い、開発過程の中にジェンダー問題を確実に組み込むために使用された。

今後の方向：女性の地位向上のための国家機構については進展が見られたものの、これらの組織では要員および資金が不足していることが多い。UNFPAは、政府レベル、非政府レベル双方においてこれら各国の機関の強化に特別な配慮をはらっている。

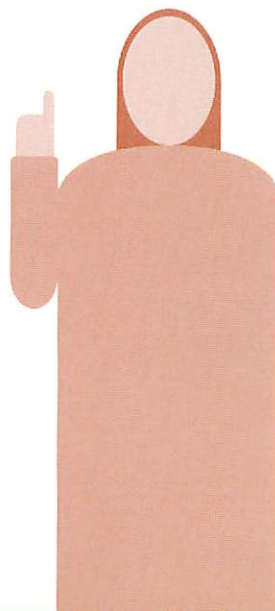
重点領域9 女性の人権

すべての人権——市民としての権利、文化的、経済的、政治的権利および開発に対する権利を含む社会的権利は、普遍的であり、不可分であり、相互に依存し、互いに密接な関係にある……女性と少女の人権は普遍的な人権の、奪うことのできない、欠くことのできない、不可分の部分である。女性と少女がすべての人権と基本的な自由を十分かつ公正に享受することは、政府および国連にとっては優先事項であり、女性の地位向上のために必須である。

—北京行動綱領、パラグラフ213—

北京合意は、人権としての女性の権利が重要であると強調し、以下の目的に到達するよう行動を起こすことを強く求めている。

- 人権擁護に関するあらゆる手段、特に「女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約」(the Convention on the Elimination of All Forms of Discrimination against Women)を完全に実施し、女性の権利を促進し、保護する
- 法律および実際における平等と非差別を確保する
- 法律に対する実用的な知識を持つ法識字 (legal literacy) を達成する



多くの女性は、
国内法および国際法で定められた
自らの基本的な権利を知らない

リプロダクティブおよびセクシャル・ライツ（女性の妊娠、出産についての自己決定権）を保証することの必要性は、世界中で起きている女性の人権侵害、たとえば、高い妊産婦死亡率、安全でない中絶、HIV/AIDSを含む性行為感染症および望まない妊娠、特に思春期の少女の望まない妊娠等が示すように、緊急の課題である。社会構造や女性の役割が子供の養育に限定されるといような考えにより、女性の可能性はいまだに制約されている。さらに、多くの女性が、国内法および国際法で定められた自らの基本的な権利をほとんど知らないのである。

UNFPAは、生活のすべての局面、特にリプロダクティブ・ヘルスおよび性行動に関する健康とライツにおける女性のエンパワーメントを求める。これらの権利は、本質的にその他の人権と関連するものであり、持続可能な開発の前提条件である。妊娠・出産に関する意思決定の過程に女性が参加することにより、たとえば教育、労働市場や公的な生活への参加など、社会的な開発の他の分野に積極的に参画し、関連した権利を享受することも可能となる。

性行動および人口生産に関わる (リプロダクティブ) 権利のプログラム

UNFPAは、女性と男性の平等に基づいた人口再生産（リプロダクション）に関する意思決定の分野にその活動の焦点をあてている。これには、結婚における選択、出産する子供の数、産む時期、出産間隔の決定権、性的暴力や強制からの自由を含むセクシャルおよびリプロダクティブ面での安全保障、およびプライバシーに関する権利などが含まれる。

UNFPAは、リプロダクティブおよびセクシャル・ライツを女性が実践できるよう各国におけるパートナーを支援する。

その中には、ラテンアメリカとカリブ諸国におけるリプロダクティブ・ライツを擁護し推進するための政策を強化し、適切な法的枠組みの創出、アフリカとアラブ諸国のいくつかの国における女性器切除（FGM）を含むジェンダーに基づいた暴力の犠牲者および東南アジアにおける女性と少女の人身売買による犠牲者のための法的な支援業務、避難場所の提供およびケアに対する支援を含んでいる。UNFPAは各国のパートナーとともに、性に基づいた暴力に関する政策協議また国会議員、判事、宗教並びに地域の指導者、法執行機関に向けた啓発キャンペーンを実施している。また、人権教育、法識字——特に女性向けの——活動に対しても資金や資材、人材などの資源提供を行っている。

UNFPAは、ジェンダーに十分配慮したリプロダクティブ・ヘルス・プログラムを評価、促進し、その中に患者の権利やケアの質のような問題を盛り込むため、メキシコとブラジルにおいて、NGOと政府間の協力を促進した。UNFPAは、アフリカ諸国における女性局やNGOに対する支援には特に積極的である。ザンビアでは、UNFPAは女性や少女を差別する法律や慣習に関する情報を文書化し広める努力に対し支援を行った。モザンビークでは、UNFPAは、「女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約」の普及を支援した。

被害を受けやすいグループの権利に対する取り組み

UNFPAは、あらゆる場所の女性と少女の健康を向上させることを公約する。これには、緊急状況下や危機後の女性や少女のニーズに対応するものであることが必要となる。UNFPAは、戦争や内戦中の強姦および性的暴力の犠牲者を支援し、東ティモール、コソボ、アフリカのグレート・レイク地区に対し、緊急リプロダクティブ・ヘルス・キットを支給した。

UNFPAは、思春期のリプロダクティブおよびセクシャル・ライツを促進する必要性も認識している。HIV/AIDSを含む性行為感染症に感染する可能性を持つ思春期の無防備な性交および望まない妊娠を低減するため、UNFPAは若者のエンパワーメントを支援し、リプロダクティブ・

ヘルス・サービスを提供する。

ドミニカ共和国では、UNFPAは、厚生省と2つの若者NGOが行った思春期のリプロダクティブ・ヘルスに関する初めての共同作業を支援した。このプロジェクトでは、都会の貧しい地域の教師、医療提供者、カトリック聖職者達を連係させ、ピア・カウンセラー・プログラムを創設した。リプロダクティブ・ヘルスおよび性行動に関する健康と親としての責任に関する情報を通じて、少女は性行動に至る時期を遅らせることができるようになり、少年は性には責任が伴うことを学んだ。

UNFPAはまた、地球レベルでさまざまな活動を支援する。リプロダクティブ・ヘルスおよび性行動に関する健康と権利に焦点を合わせた、「女性の健康への人権的アプローチ円卓会議」（1996年12月9日・11日、ニューヨーク州、グレンコブ）の開催を援助した。またUNFPAは「世界人権宣言」から50周年、「1993年のウィーン宣言と行動計画」から5周年を契機として、世界の注目を女性の人権に再び集めるために、「1998年女性の人権グローバル・キャンペーン」へ資金拠出し積極的に参加し、一連のイベントや広報活動への支援を行った。

UNFPAは現在、人権条約機関、特に「女子に対する差別撤廃委員会」（Committee on the Elimination of Discrimination against Women）とより緊密に活動しており、最近では差別に反対する条約の活用に関する認識を高め、その実施を容易にするための活動ガイドを開発した。

今後の方向：女性の人権を保障することの必要性は、この人権がいまなお世界中で侵害されていることからわかるように、緊急の課題である。UNFPAはその活動を通じて、女性、男性、思春期の若者のリプロダクティブ・ライツを強力に提唱し続けていく。

重点領域10

女性とメディア

メディアのジェンダーに対する認識不足は、公的メディア民間メディア、地方局、全国局、国際的なメディア組織がジェンダーに関する固定観念を排除できていないことから見ても明らかである。多くの国々において印刷物や電子媒体を通じたメディアは、女性のさまざまな生き方および変化する世界の中における女性の社会への貢献を平等な視点でとらえていない。女性の伝統的な役割を補強するプログラムも同様に制限されるべきである。

—北京行動綱領、パラグラフ235、236—

メディアは変革の強力な媒介となり得る。同様に圧制の強力な媒介ともなり得る。したがって、北京行動綱領は以下のことを求める。

- メディアと新しいコミュニケーション・テクノロジーを通じて、女性の自己表現や意思決定への参加およびアクセスを増大する
- メディアにおいて、バランスのとれた、固定観念にとられない女性の描写を促進する

ラジオ、テレビ、演劇、インターネットは、ジェンダーの平等と女性の地位を擁護する強力な媒体である。しかし、メディアは女性と女性の社会における役割の固定観念にとらわれたイメージを強化することも可能である。さまざまな形態の、現代的なあるいは伝統的なメディアを女性が利用し、コントロールすることは、いまなお多くの社会の中で制限されている。

往々にして女性と社会における
女性の役割に対し、
メディアは固定観念にとらわれたイメージを
強めてしまうことがある



女性の声が確実に届くように

多くの国における各国プログラムでUNFPAが啓発活動を行う場合、現代的なコミュニケーションと伝統的コミュニケーションの両方のコミュニケーション方法を用いている。この中には文化的に配慮が必要となるような微妙な問題を取り扱う特別のラジオ番組やテレビ・スポットなども含まれる。たとえば、パプア・ニューギニアでは、ジェンダー、思春期、性的関心、その他関連した問題を扱う週2回の番組が放送されており若者達に非常に評判が良い。

ラテンアメリカでは、例えば女性に対する暴力の排除をその目標とする活動など、メディアが啓発活動と意識向上のために広く利用される。UNFPAは、中南米の情報メディア・ネットワークであるフェムプレス(Fempress)を支援した。チリを拠点に他の14カ国に特派員を派遣しているこのネットワークは、開発と民主化の基本的な構成要件としてのジェンダーに対する認識を強化し、女性のエンパワーメントを促進することを目指している。フェムプレスは、ジェンダー問題に関する一般的な情報を扱う月刊誌Mujer/Fempressを発行しており、ラジオ放送用の90分テープも作成している。ネットワークの特派員は、ジェンダー問題をカバーし、セミナーへ参加し、会議を組織し、新聞社と会見する。フェムプレスは、インターネットでも接続可能である(www.fempress.cl)。

モーリタニアでは、UNFPAは国内の女性の状況に関連したさまざまな問題や人口問題に関する放送を専門としたラジオ局の開局を支援した。このラジオ局は、女性問題担当国務大臣により管理されている。番組の内容は、女性の健康、エンパワーメント、雇用、教育に関するものであり、家庭や職場の女性とその家族に向けたものである。

国際レベルでは、ソマリア出身で5歳のときに女性器切除を施されたワリス・ディリー(Waris Dirie)が、女性の権利は人権であるという認識を地球規模で高めようとする国際的な親善訪問(フェイス・トゥ・フェイス)キャンペーンの一環として、UNFPAの特別大使に任命された。ディリーは世界中のジャーナリスト、テレビ・ネットワーク、ラジオ局取材し、女性器切除の根絶を訴え

るため演説や出版物の販売促進ツアーを積極的に行っている。特別大使としては、他にもリンダ・グレイ(リプロダクティブ・ヘルスおよびライツ分野)、ジェーン・フォンダ(思春期のリプロダクティブ・ヘルス分野)がいる。

今後の方向：女性のエンパワーメントやジェンダーの平等においてメディアが果たすことができる力強く前向きな役割は支援され、さらに開発されるべきである。UNFPAは、女性の声が確実に届くように、プログラムを実施している国で新しい道を拓き続ける。

重点領域11

女性と環境

人間は持続可能な開発という課題の中心にいる。自然との調和の中で健康で生産的な生活をおくる権利がある。……女性は、環境的な倫理の促進、資源利用の削減、廃棄物を最小限に食い止めるために再使用やリサイクル、そして過剰な消費を削減するうえで、しばしばリーダー的役割を果たし先導してきた。

—北京行動綱領、パラグラフ246、250—

**貧困、環境、人口問題を
個別の問題として取り扱うことは
不可能であると国際社会は合意した**

持続可能な開発を希求する世界は、それを行う際に女性を考慮に入れなければならない。北京会議の調印国は次のことに向けて活動することを合意した。

- あらゆるレベルの環境問題に関する意思決定において女性が積極的に参加する
- 持続可能な開発のための政策とプログラムにジェンダーの視点を統合する
- 開発や環境に関する政策が女性に及ぼす影響を評価す

るための仕組みを、あらゆるレベルで強化あるいは創設する

1992年国連環境開発会議（UNCED）において、国際社会は、貧困、環境、人口のそれぞれを個別の問題として扱うことは不可能であると合意した（UNFPA「21世紀の人口—UNFPAとアジェンダ21—」）。急激な人口増加と人口移動は、広範囲な環境劣化に密接な関連がある。女性は、環境問題の解決において欠くことのできない重要な構成要素である。女性は、貧しいコミュニティにおいて食物生産のかなり多くの部分を担い、水の利用に責任を持っている。そのため、食料生産や水の利用の効率向上とそのために必要な知識に対し特に関心を持っている。

人口と開発の結合

増加する人口の基本的なニーズを満たすには、健康的な環境が必要である。したがって、UNFPAは研究と分析、一般への情報の提供、環境管理プロジェクトの中にリプロダクティブ・ヘルス問題を組み入れること、人口政策の策定、環境保護における女性の役割に焦点を合わせた訓練とプロジェクトを支援する。

人口、環境、資源の重要な関係を認識させるため、UNFPAは出版物を発行し、会議とシンポジウムを主催し、専門機関の一定の活動を支援した。また、女性、人口、環境に関連したさまざまな活動を支援するNGOとの連携を強化した。

たとえばメキシコでは、UNFPAが支援を行っているヨコペテック・デベロップメント・センター（Jocotepec Development Centre）が、人口と環境に関する問題関心を結びつけた。このセンターは、思春期の少女と少年のための家族生活と性教育プロジェクトとしてスタートした。若者達が水資源の枯渇と水質汚染についての懸念を示したため、環境面の問題を追加した。このプロジェクトでは、近隣のカパラ湖に焦点を合わせ、その地方の人口と公害の及ぼす影響に取り組み、リサイクルと地域社会の清掃キャンペーンのスポンサーとなっている。このプロジェクトの成功は、同様のプロジェクトを再度行うことにつながった。現在では、メキシコに数多くある人口および家族教育関連のNGOのプログラムには環境問題活動が含まれており、これらNGOが協力してメキシコ人口・環境ネットワークを創設した。

今後の方向：ジェンダー、人口、開発、環境の間のつながりは多岐にわたり、そして多様である。女性は、環境の劣化により真っ先に被害を受ける。環境を管理する女性の役割は、今後もさらに支援され求められるべきである。



重点領域12

少女

少女は、産まれたときから子供時代を通じて大人になるまで差別される。地域によっては、女性より男性の数が多く、100人に対し105人である。この不均衡の理由としては、少女に害を及ぼす態度と慣習、たとえば女性器切除、男子選好……早婚……女性に対する暴力、性的搾取、性的虐待、少女に対する差別的な食事の分配、その他の健康と生活環境に関連した慣習などがあげられる。その結果として、成人に至るまでに生き残る少女は男児に比べ少なくなるのである。

—北京行動綱領、パラグラフ259—

女性であるがゆえの不平等な重荷は
産まれた時から始まり、
子供時代を通じて継続する



女性であるがゆえの不平等な重荷は産まれたときから始まり、子供時代を通じて継続する。少女が生き残り、その可能性を十分に発揮できるよう手助けするために、北京行動綱領は政府、関係省庁、民間部門に対し以下のことを勧告している：

- 少女に対するあらゆる形態の差別を撤廃する
- 少女に対する否定的な文化的態度および慣習を撤廃する
- 少女の権利を促進、保護し、少女のニーズと可能性に対する認識を高める
- 教育、技能習得、訓練における少女への差別を撤廃する
- 少女の健康と栄養に対する差別を撤廃する
- 児童労働の経済的搾取を撤廃し、働く少女を保護する
- 少女に対する暴力を根絶する
- 少女が社会的、経済的、政治的生活を理解できるよう促し、そこに参画していくよう推進する
- 少女の地位を向上させるうえで、家族の役割を強化する

若い女性や男性は多くの健康面の危険に直面する。しかし、思春期から安全に成人をむかえるために助けとなる情報やガイダンス、サービスなどに関しては適当とはいえない。リプロダクティブ・ヘルスおよび性行動に関する健康に関しては、特にそうである。思春期の若者たちは性的な関係を持ち（多くの場合、自発的なものだが）、虐待の結果としての場合もある）、自らの健康を保護するための情報やサービスを必要としている。

思春期のニーズへの取り組み

UNFPAは、思春期のニーズを満たすことを目的とした多くの活動を支援し、少女がおかれた困難な立場に特別の配慮を行う。情報、教育、コミュニケーション活動は、思春期の若者、両親、教師、地方のリーダー、あるいはその他の関連グループに対し、少女を教育することの重要性を示すことになる。それは早婚や低年齢出産のマイナス面、女性器切除のような有害な慣習も視野に入れている。必要に応じ政策や法律の改革の必要性を訴えかけると同時に、リプロダクティブ・ヘルス面へのサービス

提供も支援した。

UNFPAは、少女のための技能習得訓練が非常に有益であることをその経験から見出した。また、UNFPAはさまざまな国において、十代の妊娠を予防し、妊娠した場合にも学校に通わせることを狙ったプログラムを実施している。

たとえばニカラグアは、中央アメリカにおける十代の妊娠率が最も高い国である。UNFPAは、思春期のリプロダクティブ・ヘルスだけに焦点を合わせたプログラムの開発を支援した。若者にリプロダクティブ・ヘルス面のサービスを専門に提供する国内唯一の医療機関である厚生省に対し支援を行った。このプログラムは、農村に住む若者にまで届くことを目的としたもので、移動診療所と演劇グループを通じて実施され、強力な情報、教育、コミュニケーションで構成されている。

南アフリカでは、若い女性に収入を得る機会や教育を継続する機会を与えた。訓練を通じて、そしてピア・エデュケーターが役割モデルとなることで、経験を共有し、リーダーシップ、自己主張、コミュニケーション、意思決定、目標設定、摩擦の解消について学んでいる。自らのリプロダクティブ・ヘルスおよび性行動に関する健康について学ぶこと、必要とするサービスを受けることも重要な要素である。

思春期のエンパワーメント

ジェンダー問題において社会化（成長の過程を通じ社会的な規範を内在化していく過程）の持つ重要性は認識されており、若者に対するジェンダーを十分配慮した家庭生活教育は多くの国で支持されている。地域間レベルでは、思春期の少年の社会的行動と期待、男性の態度と行動およびそれらが性的関心やリプロダクションについての男女の意思決定に及ぼす影響などに関する研究が行われている。

エジプトでは、若者リーダーシップ・プロジェクトが、リプロダクティブ・ヘルスに関する明確で現実的な情報を求める若者達のニーズに応えるため、地方のNGOが実

施する若者向けのプロジェクトを支援している。また、親となるための準備として、文化に基づいたジェンダーに関するガイダンスも提供された。若い女性とそのニーズは、ガイダンスの重要な焦点となっている。プロジェクトに参加した若者達により、訓練マニュアルが開発された。このプログラムでは、思春期のための特別なリプロダクティブ・ヘルス面のサービスも提供される。

スリランカでは、特に少女に対する性的虐待、性的搾取を排除するため特別の努力がなされている。プロジェクトでは、思春期の若者とその両親を対象とした、リプロダクティブ・ヘルス問題を話し合うセミナーやワークショップを主催した。病院では、女性と少女がリプロダクティブ・ヘルスに関する情報を得ることができるカウンセリング・プログラムが採用された。さらに、子供への虐待事件を捜査し、犯罪者を裁判にかけ警察を援助した。婦人警官には、傷つけられた子供に対するカウンセリング法の訓練が行われた。ボランティアは地方警察とともに子供への虐待問題に取り組み、すべての警察署には訓練された要員が常駐する専門の「子供虐待デスク」(Child Abuse Desks) が設けられた。法律面への働きかけにより、子供への虐待を禁止する法律が通過した。

今後の方向：非常に幼い時から、少女の権利と健康は世界のいたるところで危険にさらされている。UNFPAは、リプロダクティブ・ヘルスおよび性行動に関する健康面のサービスと情報、技能習得、その他のタイプの教育および訓練が利用可能になるよう支援を継続し、少女の権利保護のため、細心の注意を払って関わり続ける。思春期の若者は、支援を受け、養育され、情報を与えられ、自らの生活を最大限に、安全に、責任あるものとして生きる機会を与えられるべきである。

参考文献

“AIDS Epidemic Update: December 1999.” Joint United Nations Programme on HIV/AIDS (UNAIDS) .

AIDS Update 1998. UNFPA.

Annual Report 1998. UNFPA.

“Education for All: Making the Right a Reality.” *The State of the World’s Children 1999*. United Nations Children’s Fund (UNICEF) .

Environment for People: Building Bridges for Sustainable Development. UNFPA. 1997.

和文：『人類のための環境：持続可能な開発のためのかけ橋』、UNFPA、1997年
(翻訳 財団法人アジア人口・開発協会)

“A Five-Year Review of Progress Towards the Implementation of the Programme of Action of the International Conference on Population and Development.” Background paper prepared for The Hague Forum, The Hague, Netherlands, 8-12 February 1999. UNFPA. 1999.

Human Development Report 1999. United Nations Development Programme (UNDP) .

和文：『1999年人間開発報告』国連開発計画 (UNDP)、古今書院

“Incorporating Women into Population and Development-Knowing Why and Knowing How.” (Draft paper.) UNFPA.

Platform for Action and the Beijing Declaration, Fourth World Conference on Women, Beijing, China, 1995.『第4回世界女性会議行動綱領および北京宣言』中国、北京、1995年

Population in the 21st Century: UNFPA and Agenda 21. UNFPA. 1997.

Programme of Action, adopted at the International Conference on Population and Development, Cairo, Egypt, 1994.

和文：外務省監訳『国際人口開発会議行動計画-カイロ国際人口開発会議(1994年9月5—13日)採択文書』、(財)世界の動き社、1996年

Promoting Gender Equality in Population and Development Programmes: Best Practices and Lessons Learned. UNFPA. Forthcoming.

“Reducing Maternal Mortality and Morbidity.” Programme Advisory Note No.5. UNFPA. 1998.

“Reproductive Health Services in Crisis Situations.” Technical meeting, Rennes, France, 3-5 November 1998. UNFPA. 1999.

The State of World Population 1999: Six Billion: A Time for Choices. UNFPA.

和文：『1999年世界人口白書：世界人口60億—選択のとき—』UNFPA、〔翻訳 財団法人家族計画国際協力財団 (ジョイセフ)〕

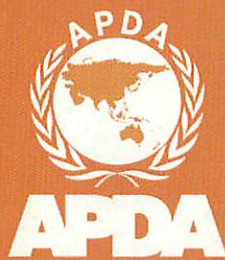
UNFPA project files and submissions to questionnaires on implementation of the Beijing Platform for Action by UNFPA Country Offices.

Violence Against Girls and Women: A Public Health Priority. UNFPA. 1999.

国連難民高等弁務官事務所ウェブ・サイト：
www.unhcr.ch/statist/98oview/tabl.

世界銀行ウェブ・サイト：
www.worldbank.org/poverty/data/trends/income.htm





The Asian Population and
Development Association

財団法人 アジア人口・開発協会
〒160-0022
東京都新宿区新宿1-5-1
TEL (03) 3358-2211
FAX (03) 3358-2233

E-mail Address: apdaty@gol.com



UNFPA
United Nations
Population Fund

220 East 42nd Street
New York, N. Y. 10017
U. S. A.
Telephone: (212) 297-5020
Fax: (212) 557-6416